



佐藤まさみ県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

若手教員 大量採用

習志野市特集

教育力の引継ぎが課題に

習志野市選出の佐藤正己県議は、充実の4期目を迎え、県議会のベテラン議員として活躍しています。地方政治への豊富な識見に裏打ちされたバランスの取れた政治感覚は周囲の人々の信頼を集めていますが、12月県議会一般質問でも教育問題を皮切りに道路問題、幕張メッセが抱える課題など多岐にわたって県の施策を質し、提言を行いました。質疑の模様を特集します。



若手教員の教育力向上や、幕張メッセの将来について質問する佐藤正己県議

12月県議会一般質問

佐藤議員 本県では経験豊かなベテラン教員が大量に退職する時期を迎えている。これに伴い、新規採用教員の数も増加し、1300人を超える大量採用時代に入っている。

このため、若手教員は見習うべき先輩教員が少ない中で、教員としてのキャリアを積んでいかなければならない状況にある。回りに相談できるベテランの先輩教員がいなくところから、独りで問題を抱え込んでしまい、メンタル面でのケアが必要となるケースも増加していると聞いている。

子どもたちの学力向上を図り、道徳性を身につけ、健やかな体を育成していくうえで、大量採用時期の若手教員をどのように育成していくかが、最も重要な課題であると思う。そこで、かがうが、教員の大量退職の時期に当たって、ベテラン教員が培ってきた教育力を若い世代に引き継ぐために、県教育委員会は具体的にどのような取り組みをしているのか。

教育長 県教育委員会では、今後とも増加することが見込まれる新規採用教員を計画的に育成するため、従来1年目のみであった初任者研修を、本年度から採用後3年間の継続的な研修に改善したところです。

この新しい研修の2年目、3年目では、若手教員が自らの課題解決に向け、先輩教員からより多くの指導を受けることができるようにしました。

また、教職経験豊かな退職教員を「若手教員育成推進員」として各地域の研修において活用するとともに、授業力に優れた教員を、「魅力ある授業づくりの達人」として認定し、指導方法や教材のつくり方などを若手教員に伝えていくところを

今後とも、ベテラン教員が培ってきた教育力を若い世代に引き継ぐことにより、その資質・能力の向上を図り、千葉県の子どもの学力向上や道徳性の涵養、健やかな体づくりに努めてまいります。

郷土を愛し、誇りを 持てる教育の推進を

佐藤議員 県内の子どもたちが、郷土を愛し、郷土に誇りを持てるような教育をもっと推進すべきではないかと思うが、県教育委員会の考えはどうか。

教育長 本県では、子どもたちに地域への誇りと愛着を持たせるため、千葉県教育振興基本計画の重点的な取組みの一つに「郷土と国の歴史や伝統文化などについて学ぶ教育の推進」を位置付け、各学校で郷土の先人の生き方や地域の風土、文化、技術を学ばせる教育を推進しています。

例えば、小・中学校では、各教科などで地域の史跡や文化財を直接訪ねて歴史・文化・伝統を学んでいるほか、道徳でも本県の伝統技術である「上総掘り」を国際貢献に生かしている事例を取り上げた映像教材や、郷土に尽くした先人・文化財などを扱った指導事例集を活用し、郷土愛を育む教育を行っています。

特別支援学校の開設 県と習志野市が協議

佐藤議員 習志野市への県立特別支援学校開設に向けての取組状況と今後のスケジュールはどうなっているのか。

教育長 県教育委員会では、本年3月に、特別支援学校の児童生徒の増加などに対応するため、今後10年間を見通しつつ、当面5年間を計画期間として、「県立特別支援学校整備計画」を策定いたしました。

習志野市に在住する障害のある児童生徒は、主に県立八千代特別支援学校及び県立船橋特別支援学校に通学していますが、特に通学時間の短縮を図る観点から、

ひとの心を大切に「豊かな習志野市」

●県政や習志野市のご相談、ご意見を聞かせてください

佐藤まさみ 県議事務所

〒275-0001 習志野市東習志野3-5-1
TEL.047-475-2001

今後、学校の規模や設置場所の選定について協議を進めるとともに、周辺市をはじめ関係市(市・町・村)教育委員会とも協議しながら、できるだけ早く結論を得られるよう努力してまいります。

習志野都市計画道路・藤崎茜浜線

用地、91%買収

25年度に工事着手へ

佐藤議員 現在、県事業として整備が進められている習志野都市計画道路・藤崎茜浜線についてうかがう。通称・市役所通りからJR総武線と京成電鉄線を越え、通称・ハミングロードまでの区間において用地買収が進められており、地元では市内の交通渋滞の緩和の観点から、大いに期待している。そこだろうかすが、習志野都市計画道路・藤崎茜浜線の進捗状況と今後の見通しはどうか。

県土整備部長 藤崎茜浜

今後とも、地元関係者の協力を得ながら、積極的に用地取得を進めていくとともに、平成24年度までに鉄道事業者などの関係機関との協議を整え、平成25年度より工事着手が図られるよう、事業の推進に努めてまいります。

再質問 佐藤議員 習志野都市計画道路・藤崎茜浜線については、平成25年度に 工事に着手していただけるという理解



平成25年度に工事着手見込みの藤崎・茜浜線

線でございますが、周辺は大変交通渋滞の激しいところでございまして、用地のほうもかなり進展していますので、平成25年度には工事着手が図られるよう、しっかりと関係機関との協議を進めてまいりたい、このように考えております。

経済波及効果の大きい大規模展示会の誘致を推進するとともに、今後はサマーソニックやトミカ博に代表される音楽・娯楽分野における新規イベントの誘致にも努め、幕張メッセを産業振興・国際化推進の拠点として最大限活用してまいります。

液状化被害地域の水道管

耐震管に敷設替え

佐藤議員 水道管の耐震性の向上や民間事業者との連携が必要であると思うがどうか。

水道局長 県水道局では、平成18年度から全ての配水管工事において、耐震継手を採用し、管路の耐震化を進めてきたところでありますが、今年度からスタートした中期経営計画では、5年間で約320キロの更新・耐震化を図ることとしております。

なお、今回の地震で特に液状化による被害が大きかった地域については、今後3年間で重点的に耐震管に敷設替えして行くこととしております。

また、災害時における対応については、民間事業者との連携が欠かせないものと考えています。

震災を含む災害時において、応急給水及び水道施設の応急復旧を迅速に行うため、管工事協同組合をはじめとする民間事業者などと応援協定を締結しております。

佐藤議員 UR(都市再生機構)が所有する給水管や受水槽の耐震化について、県として強くURに働きかけるよう要望する。

施設間競争や老朽化 課題抱える幕張メッセ

佐藤議員 幕張メッセをめぐる状況は依然として厳しい。まず、首都圏の東京ビッグサイトやパシフィコ横浜との競争の問題がある。両施設の稼働率が60から70%であるのに対して、幕張メッセの国際展示場の稼働率は平成21年度が40%、23年度は34%しかない。

アジア各国の施設の整備も進んでおり、いま幕張メッセは国内外の厳しい施設間競争に去らされている。

また、幕張メッセは開設

されてから20年以上経過しており、老朽化の問題も心配だ。国内外のし烈な競争に勝ち抜くためには、今後大規模な改修が必要になることは確実。

さまざまな課題を抱える幕張メッセだが、幕張新都心を牽引する中核的な施設として、今後もその役割は変わらない。そこだろうかすが、今後、県は幕張メッセをどのようにしていくと考えているのか。

知事 幕張メッセは、ア

12月県議会一般質問 習志野市特集

元気な習志野 まちづくり宣言

佐藤まさみ 県議